

2026年3月12日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ  
株式会社三菱UFJ銀行

## State Bank of India と戦略的パートナーシップに関する覚書の締結について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 <sup>かめざわ ひろのり</sup> 亀澤 宏規、以下 MUFG）の連結子会社である株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 <sup>はんざわ じゅんいち</sup> 半沢 淳一、以下三菱UFJ銀行）は、今般、State Bank of India との間で、戦略的パートナーシップに関する覚書（以下 本覚書）を締結いたしました。

State Bank of India は、200 年以上の歴史を有するインド最大の商業銀行であり、インド国内に 23,000 を超える支店網を展開しています。総資産は INR 71.6 兆（約 124.5 兆円、2025 年 12 月現在）に上ります。本覚書は、インド市場に深く根差した SBI の国内ネットワークおよび顧客基盤と、MUFG のグローバルネットワークならびにクロスボーダー金融の専門性を組み合わせることで、インドへの事業拡大を進める日本企業や、日本およびその他のグローバル市場への進出を目指すインド企業の成長を支援することを目的としています。

アジアを第 2 のマザーマーケットと位置付ける三菱UFJ銀行にとって、2030 年までに GDP 世界第 3 位となり、今後さらなる経済成長が期待されるインドは極めて重要な市場です。三菱UFJ銀行は、前身である横浜正金銀行が 1894 年にボンベイ（現ムンバイ）出張所を開設して以来、長年にわたりインド経済の発展とともに事業を展開してきました。現在ではインド国内 6 拠点体制のもと、預金・貸出、国内外為替取引等を含む法人向けフルバンキングサービスを提供しています。さらに、2025 年 12 月には Shriram Finance Limited への出資を発表するなど、インド市場に対する中長期的かつ強いコミットメントを一層明確にしています。

本覚書は、日印両国が推進する「特別戦略的グローバル・パートナーシップ」および今後 10 年間の共同ビジョンとも整合するものです。インフラ、製造業、新興分野を中心とした投資拡大と企業のグローバル化が進む中、長期的な資本形成を支える連携した金融プラットフォームとして、両行は日印経済関係の深化に貢献していきます。

以上